

はちのへアート広場 令和6年度第2回ひろば交流会開催報告書

1. 概 要

文化芸術を取り巻く環境変化や、市内外の先進的・特徴的な取組事例などを学びあうことを通して、既存の取組のブラッシュアップや新たな取組について参加者が自ら考える機会とし、参加者相互の交流やネットワーキングから複数のスモールスタート事業を生み出し、持続可能で幅広い活動につなげていくことを目的として、八戸版プラットフォーム「はちのへアート広場」のセミナー型「ひろば交流会」の2回目を開催した。

2. テーマ「地域に根付く郷土芸能について」

歴史ある祭りや郷土芸能が地域に息づき、多くの住民との関わりの中で大切に維持・継続されていることを再確認するとともに、課題に向けた取り組みなどを共有し、次代への継承に繋がるよう、今回のテーマを設定した。

3. 開催日時・場所

令和6年12月8日（日）14：00～16：00 八戸市南部会館

4. 参加者数

20人

5. 開催プログラム

○テーマ：「地域に根付く郷土芸能について」

令和6年10月に八戸市において開催した「三陸国際芸術祭」を振り返りながら、テーマについて3人のパネリストとコーディネーターでディスカッションを行った。

- ・前半小テーマ：三陸国際芸術祭（郷土芸能）に関わりを持ったきっかけ
- ・後半小テーマ：郷土芸能団体の人手不足、高齢化、芸能の伝承などの課題への取組

【パネリスト】

三陸国際芸術祭八戸ディレクター 今川 和佳子氏

三陸国際芸術祭国内団体サポーター 本間 理子氏

階上町平内鶏舞組代表 引敷林 安幸氏

【コーディネーター】

はちのへ文化のまちづくりアドバイザーボード委員長 太下 義之氏

6. 内 容

・子どもの頃から郷土芸能が好きだったが、地元にながなかったため直接携わることができなかった。だからこそ見るのが好きで、色々な芸能を見て回るようになった。

・ 郷土芸能は高齢化している、担い手不足と言われるが、意外とそうでもない。三陸国際芸術祭を見ても、若手も結構いる。

☆当日の様子

